

(別紙様式)

(A3判横)

# 令和7年度学校自己評価システムシート (県立芸術総合高等学校)

目指す学校像	学芸を共に高め合い、芸術文化を担う人材を育成する高校
--------	----------------------------

重点目標	1 芸術的表現力と共通教科の学力向上を目指す意力の育成 2 芸術文化を担う人材としての人間性と社会性の獲得 3 芸術系進学重視型専門高校としての期待に応える進路実績の確保 4 芸術文化の発信による地域社会の活力づくりの推進
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	6名

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(1月22日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<b>■現状</b> ・県内唯一の芸術学科のみの専門高校として、第一線で活躍する外部講師や関係機関等と連携しながら高度な芸術教育を展開し、生徒一人一人の個性と能力を最大限に引き出すための教育活動を推進している。 ・共通教科(数学・英語)の少人数授業の実施や、補講、課題等によるきめ細やかな学習指導を展開している。 <b>■課題</b> ・芸術専門科目と共通教科目のいずれも意欲的に取り組む生徒の育成を行う。1人1台端末の利用を促進しロイロノートなどの活用により個々の学習状況に応じた学習活動の自学自習を一層推進させる。 ・新教育課程での評価方法の検証の継続及び改善とともに、学力向上に向けた取組を更に推進する。	新学習指導要領が目指す資質・能力の獲得に向けた授業の工夫・改善  主体的な学習及び学力向上に向けた取組の推進	①生徒の「主体的・対話的で深い学び」を深化させた授業を実践する。 ②教員間による授業見学や研究協議等の実践を進める。 ③観点別評価を生かした授業改善や生徒への支援及び評価方法について全教職員で共有する。	①協働的な学びを通じた生徒の変容が確認できたか。 ②授業の工夫・改善を行うことができたか。 ③観点別評価を生かした授業改善や生徒への支援及び評価方法について全教職員で共有する機会を作ることができたか。	①②新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業実践の工夫に取り組んだ。アンケート調査では、生徒の約9割が主体的に取り組んでいると回答した。 ③観点別評価については、これまでの評価について振り返り、生徒の実態にあわせて見直しの機会を作ることができた。また、今後の科目選択について検討し、改善に向けて進めることができた。	A	・観点別評価については、必要に応じて改善しながら、引き続き効果的な教育活動を展開していきたい。教育課程については進路に応じて引き続き検討していきたい。 ・自学自習のためのBYODやロイロノートのさらなる活用、生成AIの活用及び研修会について専門学科と共通教科で検討していきたい。
2	<b>■現状</b> ・入学当初から学校生活における明確な目的意識を持つ生徒が多く、生徒・保護者が学校に満足している状況がうかがえる。 ・文化祭や体育祭等の学校行事や各学科の教育活動において、多くの生徒が主体的に行動している。 <b>■課題</b> ・自立する心や責任感、他者への思いやり、社会貢献の精神など、芸術分野における将来のプロとしての意識や基礎を醸成し、人間性を磨き社会的成長を図る取組を進める。 ・学科や年次を超えた交流による合同作品の作成、地域との交流を進める。	芸術文化を担う人材としての意識及び行動の向上	①「芸術文化を担う人材」の育成を軸とした授業や学科活動、部活動等の状況を踏まえつつ実践する。 ②服装指導や心のケアなどの継続とともに、社会的なマナーやルールを尊重する態度、自立する心や責任感等を定着させる。 ③クラスでの主体的な活動をベースとし、学科、年次を超えた生徒同士の結びつきの中での創作活動を促す。	①芸術文化を担う人材像のイメージが学校内外でより共有されたか。 ②服装指導や心のケアを含めた生徒指導により、社会的なマナーやルールを尊重する態度、自立する心や責任感等を定着させたか。 ③クラスでの主体的な活動をベースとし、学科、年次を超えた生徒同士の結びつきの中での創作活動を行うことができたか。	①各教科で芸術専門科目との関連性を意識した授業実践を適宜行い生徒の興味・関心を喚起できた。 ②定期考査の振り返りや各種端末・ソフトのガイダンス及びサポート、補習を実施し、生徒の学力向上を推進した。 ③教務部やIT委員会を中心に、1人1台端末やロイロノートの活用およびサポートをスムーズに行い、授業での工夫した活用も増加した。	B	・地域との交流や挨拶運動、学科行事の情報共有、近隣小学校との交流など引き続き生徒間交流を促進させていきたい。 ・心のケアの充実の必要性は高く、継続して社会的成長を図る取組を進めていきたい。
3	<b>■現状</b> ・東京藝術大学をはじめとする芸術系大学等への進学希望者が大多数であり、芸術系の私大を中心に、9割弱の生徒が現役で進学している。 ・生徒の多様な進路希望に対応するための環境を整えている。 <b>■課題</b> ・大学入試等の状況について引き続き情報収集し、組織的な進路指導を進める。 ・入試の変化を見据えつつ補講を効果的に行うとともに、長期的な視点で進路指導に当たる。	進路実現を支援する取組の更なる推進	①学科・年次が連携して情報共有を図り、全職員による進路指導を行う。 ②各年次におけるガイダンスや芸術系大学進学のための実技試験対策や受験科目の補習・補講等を更に充実させる。 ③赤本等の進学用書籍の完備や進学フェア等の案内など、進路資料室、進路室前廊下の環境を整え、生徒の進路意欲を高める。	①補習や課題配信、自学自習等の取組を進路指導として連携させて実施できたか。 ②各年次におけるガイダンスや生徒のニーズにあった補習・補講等を実践し、進路実現につなげたか。 ③赤本等の進学用書籍の完備や進学フェア等の案内など、進路資料室、進路室前廊下の環境を整え、生徒の進路意欲を高めることができたか。	①夏期補習は23講座開講した。他の補習は年間を通じて実施し、英検指導も行った。また、定期考査の素点振り返りを実施し、授業の定着度の確認を行った。 ②学科での希望者を対象とした実技試験対策説明会や志望理由書等指導、年次での進路ガイダンス、職場見学の実施など、生徒のニーズに合わせた指導・支援を行い、進路実現につなげた。 ③赤本等の進学用書籍の完備や進学フェア等の案内設置など、進路資料室、進路室前廊下の環境を整えた結果、進路資料室の利用者が増加した。	A	・志望理由書等指導の申込制など、受験指導体制の充実を引き続き検討し、安定した進学実績を収めていきたい。 ・時代の変化に対応した進路指導の在り方について、引き続き検討し、情報を共有しながら生徒への指導に努めたい。
4	<b>■現状</b> ・地域や関係機関と連携しながら校外で生徒が様々な芸術文化活動に取り組んでいる。ホームページ・インスタグラムの活用と併せて、地域社会への学校の魅力のさらなる浸透をめざしている。 ・意欲的、計画的に生徒募集に取り組んでおり、一度来校した生徒のリピーター定着度の向上に取り組んでいる。 <b>■課題</b> ・県全体の生徒募集状況や今後の中学生数の減少を踏まえ、本校の知名度・認知度を高めていくための手段や方法を検討し、生徒募集定員の確保をめざす。 ・生徒による地域社会との芸術的活動の一層の推進を継続・発展させ、更なる生徒募集の取組を進める。	志願者倍率の向上に向けた芸術文化の発信	①新入生アンケートの結果を踏まえ、在校生による学校紹介や発表の機会を取り入れた学校説明会や体験入学を実施し、新規の中学校や在校生がいる中学校からの受検生確保につなげる。 ②各学科の生徒募集のデータ分析を進めるとともに、今後の生徒募集の在り方を継続検討し、改善する。 ③児童、生徒を対象とした各科ワークショップ等の実施や、地域における活動により早期からの本校の認知度を高める。	①在校生による学校紹介や発表の機会を取り入れた学校説明会や体験入学を実施し、新規の中学校や在校生がいる中学校からの受検生確保につなげられたか。 ②各学科のデータ分析をさらに深化させ、学校全体で検討し、改善が進められたか。 ③児童、生徒を対象とした各科ワークショップ等の実施や、地域における活動により本校の認知度を高め、志願者増につなげることができたか。	①生徒からの画像や動画を掲載したホームページやインスタグラム上での広報により各学科の行事を積極的に記事として掲載するとともに、在校生による学校紹介や発表を取り入れた学校説明会、体験入学を実施し、本校の魅力を中学生や保護者に伝え効果的な広報活動を展開することができた。参加組数も昨年度より増加した。 ②生徒募集企画室を中心に今後の生徒募集に向けたデータ分析と検討を進めた。 ③ワークショップや市内外小中学校での演奏、小高交流会を実施した。志願者数も増加傾向が見られた。	B	・インスタグラムのビューカウント数が昨年比3倍程度に増加した。定員確保については、県全体の生徒募集状況や今後の中学生数の減少を踏まえ、社会情勢に対応した広報活動や本校の知名度・認知度を高めていくための手段や方法を勘案しながら継続して検討し、全学科での生徒募集定員の確保を実現したい。 ・学校行事や学科公演などについて、より積極的にアウトリーチできる機会を創出する手立てを考えたい。

学校関係者評価	実施日 令和8年3月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	・生徒・保護者ともに満足度も高く、達成度も高く安心した。今後も各教科の連携を進めてほしい。 ・本校での学習をとらえて様々な力がついたとの感想があり、先生方の指導や生徒の学習の成果が表れていると感じた。ロイロノートを活用してさらなる学力をつけてほしい。 ・行事やレクリエーションなどにおいて、学科間交流は活発になってきていると感じるため、今後も取り組んでほしい。 ・芸術文化を担う人材育成のため、積極的な発信を引き続き行ってほしい。 ・国立大学をはじめ、一般受験で受験する生徒に対しての補習、補講など一般受験に対応できる体制づくりを今後も継続してほしい。 ・各界の著名人や卒業生による講演など、活発な情報提供が重要であると思う。
中学校への宣伝の際、生徒による芸術総合高校の特長などのアピールは効果的だと思う。	
インスタグラムは、生徒が作成することも検討してほしい。親近感が増し、中学生が芸術総合高校への受検を考えることに一層つながると考える。	